
相談～兎と亀編～

白黒 朝夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

相談〜兎と亀編〜

【Nコード】

N9205N

【作者名】

白黒 朝夜

【あらすじ】

いつまでも走り続ける

兎と亀。

それぞれの思いを抱いて走り続けていた・・・

最後にあるのはハッピーエンドが、
それとも・・・

(前書き)

雑談の短編シリーズです。

イソップ物語の「兎と亀」の兎が主人公です。

一番最後まで読んでください。

遅い

遅い！

おそい！！

オソイ！！！！

遅すぎる！！！！

「ちよつと休憩しようよー」

亀の声が聞こえる。

お前がゴールしないと魔法は解けないのに・・・
何で、俺に勝てないんだ！！

「今日は僕特製のジュースだよ」

笑顔で俺にジュースを渡す亀。

少ししか走っていないのにもう息切れしているのが解る。

クソツ！お前がもつと速ければこんな苦勞はしないのに・・・

ジュースを一口飲む。

今日も人参ジュースか。

まったく。

こんなの作る暇があるなら、走る練習しろよ。

「あせると、早死にするよ。」

死ねないし。

「ほら、また眉間にしわ寄せてる。」

生まれつきだ。

こんな世界はもう嫌だ。
仲間はマフラーにされた。
食用の兔が売り出されている。

もう、何も見たくない!!
なのに、こいつは協力してるのか邪魔してるのか・・・

「兔!」

亀の叫び声に驚いた。

「さつきから呼んでるのに・・・どうかしたの?」
いや、考え事をしていただけだ。

「本当に大丈夫?」

亀のやわらかい手が俺の額を触る。

俺と亀は昔は動物だったが、20年前から人間に生まれ変わって
いる。

俺は人間が怖い。

でも、亀は平気だ。

長年一緒だからかもな。

「今日はもうやめようよ」

亀の綺麗な瞳が俺を見る。目だけは昔のままだ。

亀もきつそうだし、俺も調子が良くない。

今日はこれで終わるか。

「兔は相変わらず速いね。」

当たり前だ。俺は兔だぞ!

「僕、楽しいんだ」

？

「朝起きて、兎と一緒に飲むジュースを作って、今日も兎と一緒に走るのがかって

思うと、わくわくするんだ。」

のんきだな。

「こうやって、兎と並んで走る日がずっと続けばいいな。」

そりゃ、お前が俺に勝つまで続くだろ。

「僕が勝つたらもう、一緒には走れないのか。」

・・・そうだな。

「ねえ兎？」

なんだ？

「ここは、兎にとっては嫌な世界なんですよ。」

そうだ。

「でも僕は兎と一緒にいられるから大好きな世界なんだ。」

・・・。

「だから、もう僕は走りたくない・・・。」

亀。

「ん？何？」

明日はお前が好きなホウレン草のジュースでいいぞ。

「兎、僕の話聞いてた？」

よし、あの木まで競争だ！

「え！？ちよつと、兎！僕の話きいて・・・。」

わかってる。

お前が俺を追い抜く時、

俺の隣に、お前がいなくなることぐらい。

でも、兎と亀が走らなくなると、俺らの関係は「他人」になる。

俺は死ぬことより、お前との関係が無くなるのが怖いんだよ

友達以上じゃなくていい。
他人にさえならなければ。
知り合い以下でもいい。
お前が隣で笑ってくれるなら。

だから、俺の後ろでお前は走ってくれ。
俺は絶対お前には負けない。
だから、笑って走り続けてくれ。

「ねえ、昨日の話し聞いた？」
「ああ、俺見た！」
「え、私聞いてない！教えて！」
「あんな、昨日の放課後、兎と亀が校庭の木まで競争してたんだよ。」
「それで？」
「いつもどおり、兎が勝ってたんだけどな、落ちてきたんだ。」
「なにが？」
「ゴール直前に、兎の頭にレンガが……。」
「それで！どうなったの！」
「落ち着け。兎は即死だった。そして……。」
「そして？」

「
亀がゴールした。
」

(後書き)

初めて(?)の感動系です

感想を書いていただければ光栄です。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9205n/>

相談～兎と亀編～

2011年10月7日14時14分発行